

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・井上	写真・後藤
山行番	NO. 1845		
日時	2019/11/16 (土) 快晴		
山域	西丹沢＝御正体山(1681m)・東尾根		
テーマ	西丹沢バリエーション研究		
コース	御正橋登山開始8:12ー・1116mー御正体山11:02(昼食)ー下山開始11:50ー一般道ー白井平分岐12:31ー御正橋ゴール13:58ー石割の湯14:20～15:30ー裾野ー長泉		
累計標高差	上り 御正橋約800m～御正体山1681m=約881m 下り 同上		
快適度	4＝少し笹藪あり(5段階評価)		
参加者	後藤、加藤、星、合谷、井上＝5名		

今回の山行は先月に計画されたが中止となったものを実行した。

行きの途中、山中湖でトイレ休憩をしたが、ここの紅葉はすばらしかった。朝日を受けて輝いていた。

車中、後藤さんは、NHKのTV番組プロフェッショナルで、プロボクサー井上尚弥のスランプの時に「基本」に戻った話に感銘を受けたと語った。では、登山の基本は何かと問いかけていた。これは、この後、ほぼ1日影響があった。スタートの御正橋がわかりにくく、スマホで確認すると通り過ぎていた。御正橋の向かいの広い土地の家に頼んで駐車させてもらう。(下山後、ここはパン工房であることがわかった)。



墓地から(ぼちぼち)入山

8:12 スタート。登れそうな場所を探し、墓地の中を進んだ。穏やかな尾根を登る。左手に沢があり、水の流れる音を聞こえる。

尾根の左側には朝日を受けた紅葉が光り愛でながらさわやかに歩く。今日はこの後、頂上まで550m

の急登が待っていることを知りながら、ここは穏やかに楽しむ。枝打ちで落とされた枝が邪魔で少々歩きにくい。ススキの原の中の鉄塔にて、地図上の鉄塔、送電線を確認した。



鉄塔

標高点・1116mまではなだらかな斜面。その後、笹ヤブが始まった。後藤さんはヤブをよけて登ったそうだが、2番手以降はヤブにつっこんだ。背の高いのは手でよけられるが、短いものは刺さる。すねや腹に衣類を通して刺さってくる。

足の上げ下ろしや体の上下の動きにあわせて刺さるのでよけられない。後で見ると何か所か傷があった。ここで、後藤語録、登山の基本①「ヤブがあるときはどうするか」＝ヤブが薄い所・少ないところを探し登ること。」・・・無理に突っ込まない。

1170m くらいから急登が始まる。実際は 30 度くらいの斜度かもしれないが 45 度に感じる。後藤さんと加藤さんがずんずん先に進んだ。3人が遅れたが、ゆっくり行こうと声をかけ、辛抱して登る。尾根を頼りに頂上を目指しており、道らしきものはない。1480m の小ピークで待っていてくれた 2 人に追いつく。



東尾根の急登

当初の計画は、下りはこの場所から登ってきた尾根の北側の尾根を下る予定だったが、尾根らしきものははっきりしない。ちょっとした地形の変化からその尾根を特定したが、のぞき下ろすような斜度だ。まあ、登ってきた尾根とそう変わらない地形だからあたりまえなのだが。残りの登りを終えた時点で一般道を使って下りるか考えることにした。

ここで、後藤語録、登山の基本②「上りの時に下りのルートを確認しておく」。ここからの急登はすごかった。まっすぐ上がるには足はハの字に広げなくてははいけないし、ジグザクに行くにもエッジを効かすのが大変。靴のエッジが効いてないとずるずると落ちてしまうので、足にずっと力が入っている。

頂上手前で加藤さんが痛めている足を休めるために立ち止まった。残り4人は、ゆっくりと登っていった。足はしんどいが息は切れない。頂上のほんの手前で一般道に合流した。

11:02 頂上到着。昼休憩。後藤さんが加藤さんを迎えに下り、10分後に加藤さんの荷物を持って上がってきた。後藤さんのお酒が入っているらしい。頂上のベンチでは犬を連れた男性が一人。ちょうど交代でテーブルとベンチを使うことができた。



頂上でランラン・ランチ

後から二人組の男性が上がってきた。季節は冬に向かっており、頂上では体が冷えるので、持っている服を着こむ。そして早速ビールをグビリ。後藤さんの手作り卵焼きと畑の大根サラダ、加藤さんと星さんの高山土産のみそや珍しい「こも豆腐」がふるまわれた。

加藤さんが、後藤さんに日本酒を温める。後藤さんに注いだ後のコッヘルに残ったのを少々飲んだので、めずらしく加藤さんの顔がほんのりと赤くなっていた。5人の中で酒を飲んでいない正常な人は星さんだけとなった。

11:50 下山開始。下りは一般ルートを選択。紅葉も赤いが、私たちも赤い。とりわけ加藤さんがいつも以上に陽気で、隣の尾根に向かって「ヨロ・レイホー〜〜〜」。

合谷さんと私に強制的に「ヨロ・レイホー〜〜〜」。時折、右手に下山ルートの尾根が見えるが、とんでもない角度である。午後の太陽の光が紅葉をステンドグラスにして私たちを包む。下りの途中で、上りで見たような大きさの岩があった。

ここで、後藤語録、登山の基本③「山では同じような高さに同じような地形がある。このような岩

は上りで見た時と同じ高さであることを示す。」井上尚弥の「基本」の影響は午後も続く。  
さらに、後藤語録、登山の基本④「山では仲間で道具を分けて持つ。細引きは6mmの細ものでよいが40mは必要。また医薬品も分担して持つもの。単独行では一人で全部持つが、仲間で登るときは分担できるのがいいところ。」



紅葉・黄葉・また来よう

白井平分岐で右に曲がる。すごい枝ぶりのブナや太い幹のモミがあった。モミは環境が良くない成長しないので、このあたりの環境の良さを証明しているとのこと。  
沢まで下りるとよりなだらかになる。ところどころに小さな滝がある沢の流れの音は心地よい。沢の水の音と紅葉をからだじゅうで楽しんだ。  
林道にでるとたくさんの別荘があらわれる。終了間際に軽自動車にのったおじさんが声をかけてき



立派な菰釣山

た。この近くに代々住んでおり、今見てきた別荘の持ち主だそう。加藤さんが手にしていた大きな紅葉をみて、それは紅葉の中でも一番いい「十二単」だと教えてくれた。先に車まで下りていた後藤さんが、我々が遅いので迷っているかと心配して戻ってきてくれた。

13:58 駐車場着。前にも書いたが、この家はパン工房であった。道の駅にパンやシフォンケーキを卸しているそう。ちょうど山型の食パンが焼けたところで、加藤さんが500円で買って来た。温泉に行くまでの道中、引きちぎって焼き立て食パンを味わった。

外側は暖かいだけだが、中の白いところはとんでもなく熱い。外は香ばしく、中はしっとりとしてこれまた贅沢を味わった。

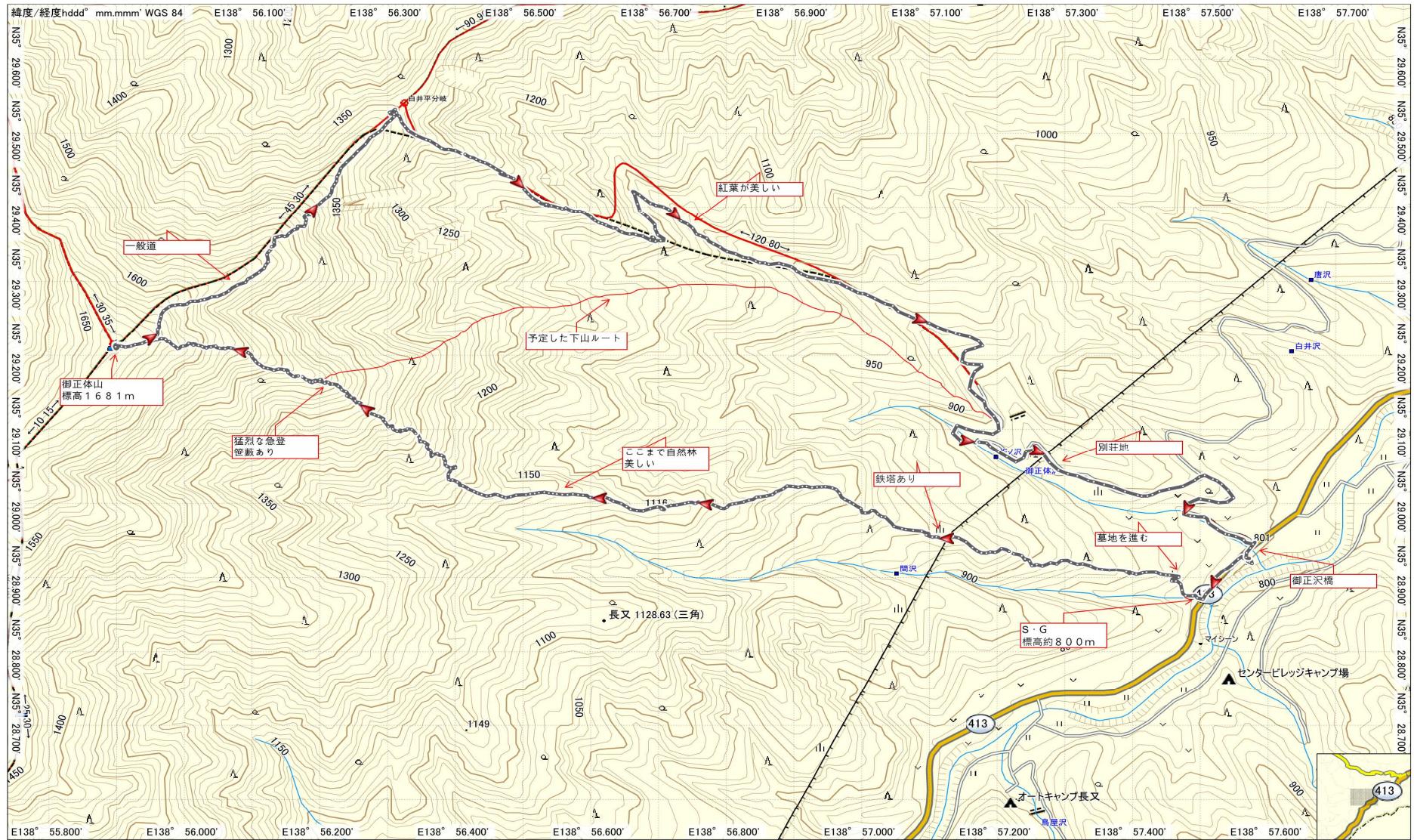
石割の湯は、露天風呂が工事中のため割引価格で600円だった。今日は紅葉狩りには絶好のタイミングと天候だった。



御正体山

#### その他の記述（後藤）

1. 藪の笹と竹の違いは?? 節に「さや」が残っているのが笹、孟宗竹のように無いのが竹という。大きさを判断もあるようだが、大きさだけでは分かりにくい。今回は笹のようだ。
2. 御正体山は、2007年11月18日以来だった。
3. 19号台風の影響は下部の沢筋で少しあった。。
4. 御正体山は、一等三角点の山。ただし、富士山は見えず、展望は良くない。
5. 「こも豆腐」=こも豆腐のあまり見慣れない形は、出来たてほかほかの豆腐を箕の子で一本ずつ丁寧に巻き茹で上げてできた形です。熱湯で茹で上げることにより、「こも豆腐」の特徴である無数の気泡が出来ます。この気泡が、通常のお豆腐では味わえない、弾力のある食感を味わえます。・・・ネット
6. 別荘地の犬（猟犬??）がうるさく、近所迷惑の感じだった。



Japan Topo 10M Plus V3  
© Garmin Corp. 2014  
Garmin Corporation 1980-2014

2019/11/17 16:59:41

0 m 100 m 200 m 300 m 400 m

GARMIN

2010/01/01